

憲法

佐藤幸治著
法学叢書7

日本国憲法論〔第2版〕

A 5 判上製772頁／4800円

(0672-4・20)

渾沌とした時代の中で、憲法現象の本質を鋭く丁寧に読み解き、わが国の立憲主義が血肉となるため心血を注いだ渾身の書。佐藤憲法学の集大成！

佐藤幸治編著
大学講義双書

憲

法

I

総論・統治機構

A 5 判上製420頁／3204円

学説状況をできるだけ客観的に記述することをベースにし、執筆者の独自の見解を開陳させた。現代の論点をすべて網羅し、最新の判例を折り込んだ、現代憲法の集大成ともいえるべき、最新の体系的 기본書。法学部学生の教科書に適しているばかりでなく、司法試験受験生にも必読の書である。(0049-5・86)

佐藤幸治編著
大学講義双書

憲

法

II

基本的人権

A 5 判上製500頁／3400円

I〔総論・統治機構〕に続き基本的人権についてまとめたものである。学説、判例状況の客観的な記述をベースに執筆者独自の見解が開陳され、類書にない新しい視点や分析枠組を提供するものである。人権をめぐる哲学、倫理学など多方面で行なわれている、特に欧米の議論にも考察の目が向けられている。(0146-7・88)

初宿正典著
法学叢書2

憲法 2 基本権〔第3版〕

A 5 判上製566頁／3700円

(0497-3・10)

基本権規定を認知する待望の第3版。日本国憲法の保障するさまざまな《基本権》を、ごく最近の判例までフォローして、わかりやすく解説した体系的教科書。

初宿正典編著

基本判例憲法25講〔第4版〕

A5判上製478頁／3300円

(0582-6・15)

日本国憲法の保障するさまざまな《基本権》を、ごく最近の判例までフォローして、わかりやすく解説した体系的教科書。

君塚正臣著

憲

法

日本国憲法解釈のために

A5判上製656頁／4800円

(0710-3・23)

学習を促進するための図表や重要判例を加え、論述の際の注意点や周辺事項などを丁寧に解説する。法学部生から司法試験受験生まで、法律学としての憲法学習の基軸となる教科書。

松浦一夫・奥村公輔編著

憲法概説〔第2版〕

A5判並製484頁／3000円

(0675-5・20)

初学者を対象とした入門書。各章の「ねらい」を冒頭で明示し、中立的な立場から諸学説を簡明に説明することを心がけるとともに、図・表を適所に挿入することで読者の理解に配慮。執筆者それぞれの講義体験を踏まえて、教科書として過不足のない説明がなされている。

吉田仁美編

スタート憲法〔第3版〕

B5判並製154頁／1600円

はじめて憲法を学ぶ人、法律を専門としない人が憲法を学ぶための入門書。学説をわかりやすく解説し、判例を簡単に紹介するほか、具体的な設問を設けて内容に興味をもてるようにし、資料を多く取り上げて、憲法の意味を実社会と結びつけて考えられるようにした。

〔0668-7・20〕

大沢秀介・葛西まゆこ・大林啓吾編

憲法.com

A5判上製310頁／2800円

憲法に興味を持つ中級者むけの問題演習教材。各セクションでは、冒頭に日本の判例をベースにした設問が示されています。読者はその設問を解くために必要な知識を、諸外国における議論との比較を踏まえた丁寧な解説を読むことによって効率よく学び、設問の検討を通じて問題発見能力を習得できます。

〔0494-2・10〕

大沢秀介編

はじめての憲法

B5判並製250頁／2200円

大学で憲法の講義をとっている人や、これから本格的に学ぼうとしている人を対象にした入門書。憲法学の主要なトピックを、具体的な設問とその解答へ至るプロセスを楽しく学んで理解し、さらにより広くまた深く学びたい人のために、対論セクションや関連ホームページを掲載し、便宜を図った。

〔0357-5・03〕

大沢秀介編著

判例ライン憲法〔第2版〕

B5判並製256頁／1800円

憲法を学ぶとは、憲法の考え方を論理的に展開する力を身に付けること。そのために必要な基本的憲法判例を厳選してまとめた一冊。第2版を出版するに当っては、最新の判例集となるように掲載する判例の見直しを行うとともに、判例8件（うち差し替え1件）が新たに追加された。

〔0508-6・11〕

岡田順太・淡路智典・今井健太郎編著

判例キーポイント憲法

B5判並製132頁／1300円

憲法が施行されて70年余りの間に、裁判所で扱ってきた数多くの憲法に関する判例について、若手の憲法学者が中心となって、憲法判例を思いっきりやさしく噛み砕いて記述した教科書。

〔0666-3・20〕

蛭原健介著

オンライン学習時代の憲法入門

46判上製264頁／2600円

2020年度のオンライン授業における学生とのやりとり、コンテンツをもとに執筆。基本的人権を中心に、具体的な素材を取り扱うことで、興味をもって学習できるように工夫されている。

〔0678-6・21〕

藤井正希著

憲法口話

A5判並製250頁／2500円

日本国憲法の基本構造や基本原理を楽しみながら理解し、身につけることを目指して、憲法の基本事項を網羅、重要判例にもできる限り言及する。全15回の口語形式でまとめられた、教養としての憲法教科書。

〔0670-0・20〕

片上孝洋編著

現代憲法25講

A5判並製374頁／3200円

各講に「本講の内容のあらまし」「設問」「参考文献」を付し、憲法の基本的な内容、判例・学説といった知識をより深め、憲法の役割や機能を正確に理解できるよう配慮した教科書。

〔0665-6・20〕

西修編著

エレメンタリ憲法〔新訂版〕

A5判上製334頁／2800円

いわゆる通説的解釈にとどまらず、編者らの独自の解釈論も展開されている出色の憲法教科書。各章・各節の「ねらい」と「チャート」、理解を容易にする「トピック」、用語解説、そして最新かつ豊富な判例やデータがコンパクトに提示され、知的好奇心と知的満足感を満たすように編さんされている。〔0443-0・08〕

長谷川日出世著

基礎日本国憲法〔改訂版〕

A5判並製372頁／2500円

〔0607-6・17〕

日本国憲法を学ぶ法学部学生はもちろんのこと、公務員試験を目指す他分野専攻の学生をも視野に入れ、これらの学生が必要とする範囲でできる限り理解しやすいように解説する入門書。

塩津徹著

比較憲法学〔第2版〕

A5判並製350頁／2800円

世界の中の日本国憲法の位置を検証する比較憲法学。総論では大統領制と議院内閣制、一院制と二院制などの典型的比較。各論ではイギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、中国、韓国、EUの憲法について詳述。第2版では近年の各国の憲法改正、状況の変化を踏まえて新たな議論を展開。〔0520-8・11〕

阿部竹松著

アメリカ憲法〔第3版〕

A5判上製774頁／5000円

著者長年のアメリカ憲法学研究の集大成。待望の第3版。州政府と基礎自治体の組織と権能に関する解説を加え、内容が一段と充実。憲法修正や判例によって憲法がどのように変遷してきたかにつき条文に順じて注釈論述。各条文制定当時の社会背景や政治慣行、条文の背景にある政治哲学諸原理についても説明。〔0553-6・13〕

藤井俊夫著

憲法と人権Ⅰ

A5判上製404頁／2900円

本書では、基本的人権にかかわる論点の伸で総論にあたる部分のほか、新しい人権、選挙権など各論の一部を取り上げた。総論ではできるだけ大局的な視野で課題の把握ができるように配慮した。また、各論ではプライバシー権、消費者の権利など新しい人権にかかわるテーマの説明に多くの分量をとった。〔0440-9・08〕

藤井俊夫著

憲法と人権Ⅱ

A5判上製384頁／2900円

本書では、人権各論とりわけ憲法の明文で保障されている精神的自由、経済的自由、人身の自由及び社会権を取り上げた。時代の変化に対応した新しい問題もできるだけ具体的な形で説明するようにした。また、さまざまな形の違憲審査に関する議論との関係を意識して多くの判例を取り上げて検討している。〔0441-6・08〕

藤井俊夫著

憲法と政治制度

A5判上製510頁／3500円

憲法の定める政治制度全般を取り上げた。その中でそれぞれのテーマにかかわる基本原理の意義を明らかにし、また、それらの相互関係について問題提起した。さらに、憲法を取り巻くさまざまな法律との関係で憲法の原理がどのような形で実現され、あるいは制約されているかをできるだけ具体的に説明した。〔0470-6・09〕

藤井俊夫著

憲法と国際社会〔第2版〕

A5判上製440頁／3000円

国連の活動と憲法との関係を強く意識しつつ平和主義および国際的人権保障の問題をとりあげたもの。本書は「憲法と国際社会」にかかわるテキストとするだけでなく、より一般的にこれらの課題を若い人々に考えてもらうための素材として用意した。第2版では、緊急事態法制など最近の動向を追加した。〔0390-7・05〕

藤井俊夫著

情報社会と法〔第2版〕

A5判上製422頁／2900円

マス・メディアと人格権、インターネット上の権利侵害、通信傍受法、住基ネットと自己情報コントロール権、個人情報保護の保護法制、情報公開制度などの憲法的課題のほか、不正アクセス禁止法、電子取引、著作権その他の知的財産権など情報社会の法的課題について、法改正等の動向を取り込みつつ解説した。〔0371-0・04〕

藤井俊夫著

成文堂選書46

学校と法

46判上製282頁／2300円

子どもの権利条約や子ども保護のための法律を紹介し、学校事故、いじめ、体罰、危機管理、情報公開、個人情報保護など学校をめぐる法律問題について説明した。また、子どもの権利制限の根拠や手続など学校における各種の事例の中での課題を示すことにより人権感覚をみがくための問題提起をした。〔0426-3・07〕

藤井俊夫著

司法権と憲法訴訟

A5判上製392頁／2800円

司法権と裁判所、法律上の争訟の要件、司法権の限界、違憲立法審査権の意義、違憲審査の方法及び判決技術、違憲審査基準論、違憲審査の限界、訴訟事件における憲法問題の現れ方の違いなどについてさまざまな判例を取りあげながら理論的な整理をした上で、今日的な課題について問題提起をした。〔0416-4・07〕

齊藤静敬著

憲法要説

A5判上製182頁／2700円

本書は、日本国憲法の原理や、その意味・内容を平易に解説することにより、誰にでも理解できるような理論的展開に心がけ、全体を通して、可能な限り、今日の通説的な立場を基調とし、また、問題の解明に資するため、必要に応じて主要な判例を引用している。〔0281-1・98〕

高乗正臣・佐伯宣親著

現代憲法学の論点〔第2版〕

—判例から学説へ—

A5判上製352頁／3000円

「初学者が興味を抱いて自らの手で憲法学の扉を開くことができる書物」。これが本書の執筆意図である。各章の「論点」に関する「主要判例とその他の判例」の要旨を掲載して裁判所の考え方を明かにし、「学説と考え方」においてテーマに関する解説を加えた。新しいタイプの現代憲法学の入門書である。〔0313-3・00〕

小林昭三著

成文堂新書3

首相公選論入門〔改訂版〕

新書判並製198頁／1400円

首相公選の必要性と、それに伴う議会と内閣の関係の変革を政治制度論的に意味づけ、こんにち的適応性について論じる。また、憲法改正によらない首相公選手法の無理・不適切を明らかにし、近代西洋と違う精神風土におけるわが国政治制度の可能性を、天皇制と折り合う公選首相という関わりで探る。〔0331-1・01〕

後藤光男著

永住市民の人権

地球市民としての責任

A5判上製294頁／5800円

人権を巡る歴史を踏まえたうえで法理論を徹底し、憲法学・行政法学で扱われる外国人の人権について検討する。判例・通説の常識を疑い、外国人の人権問題について再考を迫る研究書。〔0594-9・16〕

後藤光男著

政教分離の基礎理論

人権としての政教分離

A5判上製338頁／6500円

日本国憲法上の信教の自由について言及しつつ、国家と宗教の分離に関する歴史的意義、規範内容、さらに現代の問題について分析・検討する論文集。〔0635-9・18〕

後藤光男著

人権としての平和

平和的生存権の思想研究

A5判上製278頁／5600円

平和を人権として再構成し、日本国憲法が定める前文の「平和のうちに生きる権利」と9条の「非武装平和主義」が提起する問題点について、多くの関連文献を参照・引用しつつ叙述する研究書。

〔0652-6・19〕

後藤光男著

憲法と抵抗権

「憲法の番人」は誰か

A5判上製296頁／6000円

抵抗権の本質と法的性格、日本国憲法における抵抗権の考え方、抵抗権と基本的人権・国民主権との関係、市民的不服従との関係、憲法保障との関係を体系的に検討する。

〔0714-1・23〕

後藤光男著

学際レクチャーシリーズ22

共生社会の参政権

地球市民として生きる

46判上製246頁／2900円

地球市民と共生社会をキーワードに、国際人権法の生成と展開を概観し、日本国憲法の先駆性を地球社会の大きな流れの中に位置づける。そして、外国人の人権、参政権と公務就任権、住民訴訟の意義と機能を検討して、地方自治体、国家、国際社会での人権保障のあり方を考える。

〔0302-8・99〕

後藤光男・高島穰編著

人権保障と国家機能の再考

憲法重要問題の研究

A5判上製328頁／3600円

憲法学における総論、人権、統治の全範囲から重要問題をピックアップし、様々な専門の学問的背景を持つ研究者が独自の視点から考察を進め、掘り下げて検討する。

〔0664-9・20〕

百地章著

成文堂選書29

政教分離とは何か

争点の解明

46判上製372頁／3200円

『憲法と政教分離』に続く著者の第二論文集。宗教団体の政治活動の限界(書き下し)、政教分離と少数者の信教の自由、愛媛玉串料訴訟最高裁判決、憲法と大嘗祭、主基斎田抜穂の儀参列訴訟(書き下し)など、政教分離をめぐる重要な争点を徹底的に解明した。「政教分離とは何か」を考える上での必読書。

〔0276-5・97〕

百地章著

成文堂選書42

靖国と憲法

46判上製276頁／2500円

愛媛玉串料訴訟、首相の靖国神社参拝、国立追悼施設建設などの最近の靖国神社問題について、憲法学の立場から徹底的に解明。政教分離をめぐる最近の判例の動向や今後の課題についても言及している。靖国神社問題について歴史的事実と国際的評価を踏まえ、バランスのとれた視点から論じた好著である。

〔0366-4・03〕

百地章著

成文堂選書50

憲法と日本の再生

46判上製230頁／2300円

憲法と国家にかかわる重要問題、「国旗国歌と思想・良心の自由」「女系天皇」「第9条」「靖国問題」「人権擁護法」「憲法改正問題」などについて、争点をわかりやすく解明した。これを読めば、現在話題となっている憲法問題が良く理解できよう。憲法問題への導入書として一般読者向けにも最適。

〔0460-7・09〕

西 修著

日本国憲法成立過程の研究

A5判上製422頁／6000円

①日本国憲法成立過程における極東委員会への役割と限界、②憲法9条の成立経緯、③日本国憲法の記述に関する連合国総司令部の検閲の実際を主内容とする。これまで盲点とされていた諸点につき、1次資料を駆使して詳細に分析された力作。日本国憲法成立過程研究のための永久保存版というべき必読書。

〔0370-2・04〕

<p>荒邦啓著</p> <p>明治憲法における「国務」と「統帥」 統帥権の憲法史的研究</p> <p>A5判上製450頁／7400円</p>	<p>《権力の割拠性》という明治憲法下の統治構造の一大特色を背景として、その中から「国務」と「統帥」との分立構造を特に取り出し、両者の《調和》をめぐる議論を追う研究書。</p> <p>(0621-2・17)</p>
<p>西 修著</p> <p>現代世界の憲法動向</p> <p>A5判上製388頁／5300円</p>	<p>世界の憲法動向を「平和主義」「改正の実際」「90年以降に制定された諸国憲法の特質」などの視点から広角的に分析すると同時に、コソボ、ブータンなどの新憲法から米独仏などの諸国憲法の最新の改正状況までを網羅。付論として政府の9条解釈を再検証、類書のない比較憲法研究の必読書</p> <p>(0502-4・10)</p>
<p>藤井樹也著</p> <p>「権利」の発想転換</p> <p>A5判上製456頁／7500円</p>	<p>(解釈学)的アプローチの憲法理論とはなにか？従来の憲法学とはことなる新視点から、憲法上の「権利」の基礎理論を探究し、憲法訴訟後への新たな理論を構築する。新世紀にむけ、憲法解釈方法論、権利基礎論、私人間効力論、自己決定権論、生存権論など、憲法学上の重要問題の解明をめざす。</p> <p>(0280-3・98)</p>
<p>松浦一夫著</p> <p>ドイツ基本法と安全保障の再定義 連邦軍「NATO 域外派兵」をめぐる憲法政策</p> <p>A5判上製324頁／4000円</p>	<p>冷戦後の「同盟」の変質に対応するドイツの憲法政策を多角的に分析。日米安保と平和憲法の将来を考える。《内容》冷戦後の欧州安全保障構造の再編とドイツ、「NATO 域外派兵」をめぐる改憲論争、ドイツ連邦憲法裁判所「NATO 域外派兵」合憲判決、冷戦後の憲法政策の日独比較と21世紀への指針、等。</p> <p>(0278-1・98)</p>
<p>齋藤康輝著</p> <p>政党の憲法的融合論</p> <p>A5判上製232頁／4000円</p>	<p>国民本位の政治＝民主主義の実現という視点から、憲法と政党に関する諸テーマを体系的に考察。政党助成、代表論、党議拘束、移党による議席喪失の是非、ライブホルツの政党国家論などの理論的検討に加え、最近のわが国における憲法調査会の議論を踏まえ、政党の立憲化について今後の課題を提示した。</p> <p>(0398-2・06)</p>
<p>新井信之著 香川大学法学会叢書11</p> <p>憲法と国際人権の諸相 子ども・家族・外国人の日米比較</p> <p>A5判上製526頁／9000円</p>	<p>国際人権の国内的保障を目的として、グローバル時代といわれる昨今の法的諸問題への解決に向けた理論的枠組を憲法及び国際人権法の観点から再構築し、今後の課題と展望を探る論文集。</p> <p>(0699-1・22)</p>
<p>立正大学法学部・法制研究所編 グリーンブックレット14</p> <p>グローバルにみた日本の LGBTと人権保障</p> <p>A5判並製66頁／800円</p>	<p>立正大学法学部・法制研究所共催2020年度公開講演会『グローバルにみた日本のLGBTと人権保障』(2021年1月23日開催)の記録。</p> <p>(9281-9・21)</p>
<p>高乗正臣著</p> <p>人権保障の基本原則</p> <p>A5判上製250頁／5000円</p>	<p>従来、人権制約正当化事由としての「公共の福祉」概念が他者加害禁止原理に傾斜してきた点を再検討し、内在的制約のほか国家的ないし社会的公益による人権制約の妥当性に関する試論的考察を展開、人権保障と公益との調整を考査する。このほか、外国人の参政権、政教分離原則に関する論文を収録。</p> <p>(0432-4・07)</p>

高乗智之著

憲法と教育権の法理

A 5 判上製336頁／6700円

教育権論争が抱える本質の問題について憲法学の視点から考察する。国民教育権説が依拠する教員の教育の自由説や学習権説等に憲法解釈論から批判的検討を加え、健全な国民の育成が民主的憲法秩序維持のために有益かつ不可欠であるとの立場から、教育権の法的性質とその限界について論究した書。 (0462-1・09)

西原博史編

パースペクティヴズ5

監視カメラとプライバシー

A 5 判並製100頁／600円

街角で密度を高め、高機能になっていく監視カメラ網。急速に進歩する技術に判例や法理論は対応できているのか。監視カメラが持つ犯罪予防の効果は認めつつ、早大生の意識調査も踏まえ、生活に侵入してくる他者の目をコントロールできる法的な枠組を探る。早稲田大学社会科学部のゼミ発・提言！ (0456-0・09)

杉山有沙著

障害差別禁止の法理

A5判上製318頁／5600円

(0592-5・16)

他者依存的ではなく、主体的な個人としての障害者像を前提として、憲法14条1項が禁止すべき“障害差別”の射程と、障害差別禁止法理における平等権保障の規範的枠組を考察する研究書。

杉山有沙著

日本国憲法と合理的配慮法理

A5判上製304頁／5500円

(0656-4・20)

日本国憲法における「弱者」の存在を明確にすることによって、平等権保障としての「合理的配慮」の法的規範構造を明らかにし、日本国憲法論への具体的な応用可能性を提示する研究書。

岡田順太・淡路智典・杉山有沙編

障害がある人が出会う人権問題

A5判並製272頁／3000円

(0721-9・23)

憲法、障害法、社会福祉法、障害者福祉論等を学ぶ大学生や、障害を持つ人、その家族、福祉関係者、法律家が、体系的に人権理論を展開している憲法学の観点から、「障害のある人の人権」を学ぼうとするもの。

徳永達哉著

熊本大学法学会叢書17

国家のシンボルとシンボリック・スピーチ

A5判上製330頁／6000円

(0671-7・20)

憲法学的視座のもと、国家のシンボルに備わる独特の情報伝達機能に注目することで明らかとなる、それをを用いた表現の自由と、それに向きあう個人と国家との関係を解き明かす論文集。

新井誠著

議員特権と議会制

フランス議員免責特権の展開

A5判上製278頁／5000円

(0433-1・08)

国会議員の免責特権について定める日本国憲法511条は、いかなる規範的意味を持つのか。本書は、同規定をめぐる解釈の新たな可能性も視野に入れつつ、これまであまり研究されることのなかったフランス議員免責特権をめぐる歴史的及び理解的展開と現代的理解について紹介し、検証を加える。

大林啓吾著

アメリカ憲法と執行特権

A 5 判上製332頁／5200円

(0451-5・08)

アメリカにおける執行特権に関する研究書。アメリカでは、司法府や立法府が情報開示を求めた際、大統領がこれを拒絶できる執行特権が存在する。この特権は憲法上黙示であるにもかかわらず、これまで認められてきた。本書では、執行特権の根拠やその限界を明らかにし、権力分立原理の動態を考察する。

大沢秀介・大林啓吾編

アメリカ憲法判例の物語

A5判上製656頁／8000円

アメリカ憲法に関する最近の代表的な判例を取り上げ、その判例法理、当該判例を生み出した政治的・社会的状況等を踏まえて分析することをねらいとした。アメリカ判例法理の動向を一種の物語の中で明らかにしようとする研究書。

[0560-4・14]

大沢秀介著

アメリカの司法と政治

A5判並製378頁／3000円

合衆国における司法、とくに連邦最高裁と政治部門との関係について、建国期から現代までの歴史を検討し、その変遷の概要を明らかにする。アメリカの司法と政治を結び付ける概説書。

[0599-4・16]

大林啓吾・見平典編

最高裁の少数意見

A5判上製382頁／6000円

主に憲法判例における日本及び諸外国の最高裁判所の少数意見を横断的に分析し、法廷意見（多数意見）との対比も試みながら、少数意見の実態、その意義や課題を考察する画期的研究書。

[0598-7・16]

大沢秀介・大林啓吾編著

アメリカ憲法叢書2

アメリカ憲法と公教育

A5判上製582頁／7500円

教育内容と憲法、教育と政教分離、学校における表現の自由、学校と子供の権利の4部構成で、1つの判例を基点に、社会的政治的背景や先例の流れを踏まえつつ、その意義や射程を分析する。

[0603-8・17]

大沢秀介・大林啓吾編

アメリカ憲法叢書3

アメリカ憲法と民主政

A5判上製638頁／9000円

個々の論点に関する判決に光を当て、アメリカの民主主義の動揺に深くかかわっている選挙制度を中心に、司法がどのような判断を行ってきたのかを考察する。

[0693-9・21]

大沢秀介・大林啓吾編著

アメリカの憲法問題と司法審査

A5判上製308頁／4500円

アメリカにおける憲法問題についての連邦最高裁の判断をめぐる議論の展開を司法審査との関係を踏まえながら考察する。各分野を専門としている研究者による現時点での知的営為の結晶。

[0602-1・16]

大林啓吾・溜箭将之編著

ロバーツコートの立憲主義

A5判上製400頁／6000円

アメリカの判例法理はどのような状況にあり、21世紀の連邦最高裁はどこへ向かおうとしているのか。ロバーツコートの特徴を踏まえて10年間の憲法判例を考察し、今後の行方を検討する。

[0604-5・17]

中村民雄編著

多様化するアメリカと合衆国最高裁判所

ロバーツ・コートの軌跡と課題

A5判上製262頁／5500円

現代の重要な憲法問題について、21世紀初頭のいわゆるロバーツ・コートによる社会の錯綜的多様化を背景とする重要問題に対する判断の実績や変化を中心に観察、論評する。

[0716-5・23]

大林啓吾・柴田憲司編

憲法判例のエニグマ

A5判上製418頁／6500円

〔0632-8・18〕

憲法判例について、疑問点を取り出し、判例をベースにするとどのような答えが出るのかを考察・検討し、憲法判例をどのように発展させていくかについて考える素材を提供する試み。

大林啓吾編著

アメリカの憲法訴訟手続

A5判上製384頁／8000円

〔0655-7・20〕

アメリカでは具体的にどのような憲法訴訟の手続が存在し、いかなる制度を採用しているのかという点に光を当て、同国の憲法訴訟手続の制度と仕組みを明らかにしようと試みる。

阪本昌成著

新・近代立憲主義を読み直す

46判上製238頁／2300円

〔0448-5・08〕

第I部近代立憲主義のふたつの流れ（合理主義と伝統主義）、第II部立憲主義の転回（フランス革命とG・ヘーゲル）の2部構成からなり、自然状態から市民社会を人為的に作りあげようとする思想の流れとは別に、もうひとつの啓蒙の思想があるのだということを明らかにする。

片上孝洋著

近代立憲主義による租税理論の再考

——国民から国家への贈り物——

A5判上製350頁／7000円

〔0568-0・14〕

憲法と租税に関わるさまざまな局面を、歴史的・思想的・解釈論的・原理的研究を踏まえた上で、総合的・学際的な視点から丹念に読み解き、日本国憲法にふさわしい租税概念を探求する。

大沢秀介監修

入門 安全と情報

A5判並製200頁／2000円

〔0576-5・15〕

市民生活の安全のためには、情報の利活用や複数機関による共有などが不可欠となる一方、「自由」のためにはその適切な統制も必要であるとの問題関心から、議論の成果をまとめた入門書。

初宿正典著

日独比較憲法学研究の論点

A5判上製620頁／9000円

〔0569-7・15〕

フランクフルト憲法からドイツ連邦共和国基本法に至る160年以上にわたるドイツの憲法を特徴づける諸問題を、わが国の憲法との比較法的観点から詳細に検討する。

初宿正典著

カール・シュミットと五人のユダヤ人法学者

A5判上製590頁／9000円

〔0600-7・16〕

19世紀後半以降のドイツ憲法史ないし政治・社会的な観点に基づき、カール・シュミットと個人的にも学問的にも様々な関わりを持ち、激動の時代を生きた五人のユダヤ人法学者を追う。

ひがしゆたか
東裕著

憲法と非常事態の法理

不文の緊急権としての「必要性の原理」の立憲化

A5判上製296頁／5500円

〔0717-2・23〕

フランス憲法における緊急権、フィジーを中心とする不文の緊急権「必要性の展開」及び日本国憲法における国家緊急権の立法化を巡る考察の三部構成で国家緊急権の立法化の問題を探る。

篠原永明著

秩序形成の基本権論

A5判上製310頁／6000円

[0683-0・21]

憲法の自由保障の意義の確認から、基本権規定の客観法としての内容の検討を経て、憲法上の権利の導出へ。「秩序形成の指導原理としての自由」という足場から基本権論全体を眺める。

北住炯一著

ドイツ連邦憲法体制の成立

連合国・基本法・連邦主義

A5判上製508頁／9800円

[3425-3・23]

民主主義が混迷状況にある今日、戦後ドイツの基本法(憲法)によって制度化された連邦制の成立過程を追究し、これを通じてドイツ連邦共和国の民主主義体制誕生の一端を明らかにする。

北原仁著

占領と憲法

カリブ海諸国、フィリピンそして日本

A 5 判上製336頁／6000円

合衆国の領土拡大の方法は、購入、合併、征服等と多様であるが、米西戦争の結果占領したキューバ、プエルトリコ、フィリピン等には合衆国憲法にならった組織法を制定し、また植民地に独自の憲法の制定を認めた。日本国憲法制定の理解を深めるために、この合衆国の膨張過程における憲法原理を考察した。

山本陽一著

立憲主義の法思想

—ホップズへの応答—

A 5 判上製292頁／5000円

[0478-2・10]

イギリスにおける17世紀の憲法闘争および19世紀の法典化とこれら二つの運動をつなぐ出来事としてホップズの再生を扱い、立憲主義の思想史的点描を行う。比較のため、末尾で日本の立憲主義にふれる。

時本義昭著

国民主権と法人理論〔補訂版〕

カレ・ド・マルベールと国家法人説のかかわり

A 5 判上製384頁／7000円

国家法人説を否定してきたわが国の戦後の憲法学界には国家の法的枠組みに関する考察が欠如しているという現状を前に、法人を支える客観的利益の实在性を主張するフランス的な法人実在説という分析枠組みを用いて、ドイツの国家法人説とそれを共和制化したフランスの国民主権論とを詳細に検討する。

時本義昭著

法人・制度体・国家

オーリウにおける法理論と国家的なものを求めて

A5判上製458頁／9000円

[0585-7・15]

前著『国民主権と法人理論』で扱ったカレ・ド・マルベールの対極に位置するオーリウの法理論と法的国家論を法人理論により分析。フランス第三共和制下憲法理論のもう一つの側面を抽出する。

時本義昭著

カレ・ド・マルベール

法律と一般意思

A 5 判上製250頁／7000円

フランス第3共和制期の古典的な憲法理論書であり、1789年人権宣言で提示された一般意思の表明としての法律という原理を分析概念として、非民主的な議会主権という第3共和制下の憲法体制の特徴を鮮明に描き出すとともに、それに対する民主的な方向での改革案を示して第5共和制憲法に影響を与えた。

時本義昭著

フランス近代憲法理論の形成

ロッシからエスマンへ

46判上製290頁／5400円

[0627-4・18]

著者の前二著『国民主権と法人理論』『法人・制度体・国家』に先行する時期を論じることによって、わが国の憲法学界に有益なフランス近代憲法理論史を提示する研究書。

土屋清著

憲法学の新たなパラダイムを求めて

A 5 判上製282頁／3200円

本書は、憲法学の「パラダイム」転換という遠大な旅路の途中で、惜しくも急逝した新進気鋭の憲法研究者の遺稿を集めたものである。珠玉の論文の数々から、彼が着実にその歩を進めていたことがわかる。浦田賢治、奥平康弘、戸波江二、樋口陽一といった故人所縁の研究者からの追悼文も合わせて収録する。〔0496-6・10〕

伊藤健著

違憲審査基準論の構造分析

A 5 判上製440頁／8000円

違憲審査基準を構成要素に分割し、それぞれの性質・意味内容を確定していくことを通じて、違憲審査基準をどのように適用すべきかを検討するとともに、その実体、有り様を探究する。〔0681-6・21〕

牟憲魁著

アジア法叢書29

中国における違憲審査制の歴史と課題

A 5 判上製272頁／5000円

違憲審査制の仕組み、司法制度のあり方、民主主義への移行期における違憲審査制の機能という視点から論ずる。〔0476-8・09〕

見平典著

違憲審査制をめぐるポリティクス

現代アメリカ連邦最高裁判所の積極化の背景

A 5 判上製236頁／4500円

アメリカ連邦最高裁判所が20世紀後半に、違憲審査制を積極的に運用するに至った過程と背景を学際的に解明する。それを通して、違憲審査制と民主政治の関係や、わが国違憲審査制の活性化の方策といった、違憲審査制をめぐる理論的・制度論的諸課題に新たな視点と知見を提示する。違憲審査制に関心を持つ人必読の書。〔0532-1・12〕

水島朝穂・金澤孝編

憲法裁判の現場から考える

A 5 判並製168頁／2000円

著名な憲法裁判に直接・間接に関わった当事者による生きた憲法裁判論。長沼ナイキ基地訴訟、朝日訴訟、家教科書検定訴訟、在外邦人選挙権制限違憲訴訟を通じて、憲法がどのように活かされてきたかを考える。奥平康弘氏による憲法裁判の現代的読み解きを含む、「横川敏雄記念公開講座」の完全収録。〔0523-9・11〕

平岡章夫著

多極競合的人権理論の可能性

「自己決定権」批判の理論として

A 5 判上製262頁／4800円

「自己決定権」という美名に潜む落とし穴とは？「多極(多元)主義」的政治観をベースに、権力関係に敏感な新しい人権理論を構築する意欲作。学際的アプローチによる多方面からの徹底した「自己決定権」批判は、現代人必読。〔0552-9・13〕

上田健介著

首相権限と憲法

A 5 判上製422頁／7000円

日本の首相の地位と権限に関して、英独の比較法研究や憲法史的考察を踏まえ、憲法上の理解の再構成を試みた意欲作。従来の解釈枠組みの特徴と問題点を別出し、これを再構成するとともに、制度構想をも提示する。政官関係を視野に入れ、行政組織の編成権や職員の人事権の在り方についても考察を加えた。〔0554-3・13〕

富井幸雄著

海外派兵と議会

日本、アメリカ、カナダの比較憲法的考察

A 5 判上製670頁／9000円

安全保障の柱となる自衛隊の有用な活用。自衛隊の海外活動等に関する国会承認の立法論を視野に入れつつ、海外派兵に議会はどのように関わるべきなのかを憲法学的に考察する注目の書。〔0544-4・13〕

渡邊 互著

名城大学法学会叢書13

法律の留保に関する比較研究

憲法上の原則である「法律の留保」について、ドイツにおける「行政権に対する統制原理」と理解したうえで、その射程を明らかにし、憲法上の要請としての構造や帰結を追究する論文集。

A 5 判上製320頁／5000円

[0638-0・19]

肥田 進著

名城大学法学会選書11

集団的自衛権とその適用問題

「穏健派」グレスの関与と同盟への適用批判

我が国の外交・安全保障問題の主要論点である集団的自衛権の概念や適用対象の再検討が必要との問題意識のもと、集団的自衛権の原点に立ち返って、その創設過程を検討する研究書。

A 5 判上製376頁／6000円

[3332-4・15]

初宿正典・須賀博志編訳

原典対訳連邦憲法裁判所法

ドイツの裁判を知る必須文献。「連邦憲法裁判所法」、「連邦憲法裁判所規則」および関連法令の最新の条文を原典対訳の形で示す。ドイツ語と日本語の事項索引も充実した便利な参考書。

A 5 判並製226頁／2800円

[0364-8・03]

ゲアハルト・ライプホルツ著

初宿正典・柴田堯史訳

ライプホルツの平等論

恣意の禁止としての平等原則は、行政権や司法権を拘束するのみならず、立法者（法定立機関）の恣意的な立法行為をも禁止しているとするライプホルツの「平等論」の全貌を提示する。

A5判上製346頁／7500円

[0645-8・19]

ゲアハルト・ライプホルツ著

渡辺中・廣田全男監訳

代表の本質と民主制の形態変化

民主主義における政治的意思がどのようにして形成されるかをテーマとして、現代国家における民主主義、選挙や政党の役割、議会や議員の地位を検討するうえで基本的な論点を提供する。

A5判並製208頁／2500円

[0579-6・15]

エリック・バーレント著 佐伯宣親訳

英国憲法入門

「憲法とは何か」の問いかけからはじめて、主として、アメリカ、ドイツ、フランス等の憲法典と比較しつつ、また英国憲法に対する欧州共同体法の影響を考慮しつつ、法典化されていない英国憲法の運用の実際と問題点を明らかにした、英国の大学における憲法学の初学者を対象とする、英国憲法の入門書。

A5判上製264頁／3300円

[0380-X・04]

ワルター・ハラー著／平松毅・辻雄一郎・寺澤北奈子訳

スイス憲法

独・墺・米・仏・伊・西などの憲法の沿革、背景、運用などを随所に引用し、スイス憲法の特徴を紹介する。日本国憲法を国際的視野から評価する座標軸ともなる比較憲法学の研究書。

比較法的研究

A 5 判上製272頁／4800円

[0564-2・14]

後藤光男・北原仁監訳

翻訳叢書32

トマス・ジェファソンと議会法

ジェファソンは、アメリカ独立宣言の起草者として、また、連邦憲法に強い影響を与えた人物として著名であるが、同時に「議会慣行手引」を著した。この手引は今日でも上院規則の一部となっており、アメリカ合衆国・イギリスの議会制度の形成過程を理解するうえで不可欠の文献である。

B 6 判並製206頁／3300円

[0436-2・08]

E. F. マック=グレゴル著 北原仁訳
翻訳叢書33

憲法訴訟法

ヨーロッパとラテン・アメリカにおける学問としての起源と発展

B 6 判並製224頁/3300円

イタリアとスペインのたちは、ケルゼンによる憲法訴訟を
発展させ、これをラテン・アメリカ諸国に紹介した。ラテン・
アメリカでは、メキシコ起源のアムバーロ制度(人権救済訴訟)
が確立しており、フィクス=サムディオは、両者を融合して、
今日のラテン・アメリカの憲法訴訟法の隆盛に貢献した。
〔0479-9・10〕

行政法・地方自治法

藤井俊夫著	行政法に関する基本的な考え方を理解してもらうための教科書として、全体としては平易・簡潔な記述がはかられているが、いくつかの重要課題についてはできるだけ判例を取り入れながら掘り下げて論じられている。また、常に憲法を出発点として行政法の規範体系が構成されているのも、本書の特色である。
行政法総論〔第5版〕	[0481-2・10]
A 5 判上製498頁／3000円	
岩本章吾著	複雑な現代行政の具体的な展開を、ただ羅列的に紹介するのではなく、体系的・有機的に整理して分かりやすく解説。行政争訟の分野も、目覚ましく変革する立法・判例を踏まえて最新状況を詳解。学部・法科大学院での行政法の講義教材として最適の書。
行政法講義〔第3版〕	[0715-8・23]
A 5 判並製522頁／4800円	
小林博志著	従来の行政法学を基本に、地方分権、電子政府や市民参加など行政の新しい動きや、政策と行政法学との関係など新たな論点に触れながら、行政活動を分かりやすく解説。行政事件訴訟法の改正、行政個人情報保護法や最新の最高裁判例を踏まえた最新の内容。司法試験や公務員試験に必要な208の判例を掲載。
行政法講義	[0377-X・04]
A 5 判上製258頁／2800円	
首藤重幸・平川英子編	多種多様な行政活動を取り巻く、膨大な数の行政法規を整理、分類し、その仕組みを解明する行政法総論に関する基礎的な知識や基本判例を理解するための情報を提供する基本書。
行政法総論	[0705-9・22]
A 5 判並製410頁／3400円	
片上孝洋・兼平裕子・西村淑子・藤井正希編著	「市民と行政活動」「行政統制のシステム」「行政の外縁」に関する25のテーマを選定し、分かりやすく解説する。大学講義や公務員研修において行政法を学ぶ人のためのテキスト。
現代行政法25講	[0702-8・22]
A 5 判並製386頁／3200円	
吉野夏己著	本書は、基本的な行政法総論の理解と個別法の理解とは密接不可分の関係にあるとの前提に立ち、まず特定の法領域の基本構造を解説した上で、実際的な問題演習にあたるという構成をとる。行政法各論を意識したテキストとして他に類例を見ないものとなっており、司法試験、公務員試験に最適である。
紛争類型別行政救済法〔第3版〕	[0535-2・12]
A 5 判並製575頁／4700円	
藤井俊夫・黒川哲志編	行政法をはじめて学ぶ人のために書かれた本です。「法治主義」、「適正手続」、「行政の透明性」などの行政法の基本原理が、自然と理解できるように工夫が凝らされています。随所に散りばめられたコラムによって、専門用語が解説され、複雑な仕組みも図表化されて、初学者の理解を助けています。
はじめての行政法	[0384-2・05]
B5判並製194頁／1800円	

駒林良則・佐伯彰洋編著

地方自治法入門〔第2版〕

A5判並製248頁／2000円

〔0682-3・21〕

地方分権改革という制度改革や人口減少を受けて大きな変容を迫られる地方自治法について、講義で取り上げる主要なテーマ、重要判例について論述する。地方自治法テキストの決定版。

鈴木秀洋編著

行政法の羅針盤

B5判並製376頁／2700円

〔0667-0・20〕

理解が難しい行政法に関して、その全体像の理解とどのような課題にも向き合える思考の土台となる基礎知識習得の徹底を目指す。初学者、公務員受験者にとって全体の総復習に有用な基本書。

後藤光男編著

地方自治法と自治行政〔補訂版〕

A5判並製292頁／2700円

〔0457-7・09〕

2007年の地方公共団体の財政の健全化に関する法律の施行や地方自治法改正を受けて必要最小限の補正を施したもの。

後藤光男編著

行政救済法論

A5判上製362頁／3200円

〔0577-2・15〕

行政訴訟、行政事件訴訟、国家賠償、損失補償という行政救済法における各論点の原理的問題と現代的課題を扱う概説書。人権保障の観点からより掘り下げた検討を行って読者に提示する。

後藤光男編著

人権保障と行政救済法

A5判並製398頁／3200円

〔0475-1・10〕

行政救済法の重要論点について、人権保障の観点からより掘り下げた検討をする。平成16年の行政事件訴訟法の改正点を中心として、国家賠償、損失補償、行政不服申立、行政手続法などの現代的課題を扱い、行政法・行政救済法の学習用テキストとして最適。行政実務に携わる人にも活用が期待される。

久末弥生著

都市災害と文化財保護法制

46判上製160頁／2800円

〔0662-5・20〕

「文化財と災害」「文化遺産と現代都市の共存」「大規模都市災害とネットワーク構築」「世界文化遺産の保護をめぐる課題」の構成で、災害に対応する文化財保護法制の在り方を検討。

斎藤千加子著

行政争訟と行政裁判権

A5判上製318頁／6500円

〔0372-9・04〕

行政裁判所なきわが国で行政事件の管轄をどう位置づけるか。民事訴訟法から独立していない現行行政事件訴訟法下、行政事件の管轄が不分明、不安定で、訴訟による解決が機能しない現実を直視し、管轄問題から行政裁判所を設立したフランスにおける司法裁判所との管轄分担における準則の形成を対比する。

平松毅著

各国オンブズマンの制度と運用

A5判上製540頁／6500円

〔0525-3・11〕

世界各国に存在する警察、監獄、平等、医療、人権、金融、保険、報道、消費者、個人情報、地方自治、児童など、様々な種類のオンブズマンの活動、具体的事例が、詳しく紹介され、オンブズマンのイメージに転換を迫ると同時に、諸外国国民の知られざる生活実態に驚かされる。

本田博利著

愛媛大学法学会叢書15

基地イワクニの行政法問題

A 5判上製404頁／6000円

オスプレイ駐機に揺れる“基地イワクニ”。米軍再編下、厚木からの空母艦載機移駐により極東最大の航空基地に変貌する基地機能強化の動向を詳述し、それに反対する市民の爆音訴訟と並ぶ3つの行政訴訟（滑走路埋立て、米軍住宅建設、県市密約）の詳細な理論的根拠を提示して裁判の推移をたどった注目の書。〔0537-6・12〕

正木宏長著

行政法と官僚制

A5判272頁／4500円

行政法の観点から見た権力分立の中での官僚制の専門性、行政法学と隣接諸学問とりわけ行政学との関係、ニュー・リーガルリアリズムに関する著者の日米比較法研究の成果。100年を超えるアメリカ行政法の歴史を俯瞰する意欲作。〔0556-7・13〕

兼平裕子著

英国司法審査とEU法

A5判上製286頁／5700円

英国司法審査とEU法、英国・EUおよび日本における原子力発電、英領タックスヘイブンを利用した租税回避などの諸問題を分析し・今後の課題を検討する研究書。〔0637-3・19〕

租 税 法

増田英敏編著

基本原理から読み解く租税法入門

A5判並製266頁／2400円

〔0567-3・14〕

租税法の基本原則である租税公平主義と租税法律主義の視点から租税法を俯瞰し、難解とされる租税法を体系的に理解できるよう、コラムや図表を効果的に配置した租税法入門書の決定版。

増田英敏著

租 税 憲 法 学〔第3版〕

A5判上製440頁／3200円

租税正義は租税法の適正な解釈・適用により実現する。憲法を法的根拠とする租税公平主義と租税法律主義は、租税法の適正な解釈・適用に不可欠な基本原則である。本書のコンセプトはこの点にある。本書の完結版となる今回の改訂では、「税理士の職務と責任」、そして、「租税法研究方法論序説」の2章を加筆した。〔0402-4・06〕

増田英敏著

リーガルマインド租税法

〔第5版〕

A5判上製784頁／4500円

〔0649-6・19〕

理論編に消費税の章を加筆し、実例編で新たな重要裁判例を踏まえてアップデートを図り、租税法の基礎理論を租税正義の視点から解明する。租税法研究に不可欠の書、待望の第5版。

関子善信著

新 税 法 理 論

優しい税法

A5判並製204頁／2500円

〔0624-3・18〕

第1編で主として税法全体の理論を考察し、第2編では主要税目である、所得税、法人税、消費税について、第1編の理論を基礎としつつ、その問題点と新しい考え方を提示する。

関子善信著

久留米大学法政叢書14

租 税 法 律 関 係 論

A5判上製374頁／5000円

本書は、税法学の基礎問題である税概念、課税権、租税法律関係は権力関係か債権債務関係か等を解明し、さらに特定の租税法律関係に新説を唱える。従来の税法学の枠を越え、国家、権力、行政の本質に論及する新たな租税法律関係の体系的理論書であり、税法・行政法・憲法の学徒には不可避の書である。〔0378-8・04〕

田中敏行編著

テキスト法人税法入門

A5判並製186頁／1900円

〔0613-7・17〕

法人税法の基本的事項を中心に制度と理論の両面から分かりやすい解説を心がけ、章ごとの確認練習問題で理解を深めると共に、コラムで該当章の関連事項や重要判例等を紹介する入門書。

関本大樹著

久留米大学法政叢書19

租 税 法 と 数 理

A5判上製350頁／5000円

〔0570-3・15〕

ストック・オプション、スワップ取引やFX取引等について金融学的観点から金融取引の課税上の取扱いに関して分析的に検討し、広く租税法分野への数理工学的アプローチを目指す論文集。

北野弘久編

質問検査権の法理

A 5 判上製688頁／10000円

本書は、第一線税法学者と税務実務専門家との共同研究の成果をとりまとめたもので、豊富な学説・判例・個別事例を生のかたちで集大成し、多角的検討を加えて、質問検査権の法理の体系的解明を意図している。読者は本書により、税務調査に、いかに対処すべきかについて、的確な示唆を与えられるであろう。〔0100-9・74〕

佐藤正典著

欧州連合の投資税制

A 5判上製188頁／2800円

本書は、EU 投資税制の多面的な構造・機能を解明するため、共同体の課税権限、EU 司法裁判所の判例、租税政策の形成プロセス、各国制度の現状を取り上げる。議会資料・各種報告書・EU 司法裁判所判例などフランス語圏の原資料に依存、なお EU の投資税制を網羅的に取り上げた著作としてはわが国初。〔0414-0・07〕

酒井貴子著

法人課税における租税属性の研究

A 5 判上製246頁／5500円

組織再編や連結税制の利用に伴う租税属性の問題について、アメリカ法を参考に徹底分析された研究書。合併や連結加入に伴う繰越欠損金の承継問題だけでなく、かつてアメリカで話題となったサン・オブ・ミラー・トランザクションを巡る議論も踏まえて、わが国法人税制の発展に向けた課題が示されている。〔0510-9・11〕

小塚真啓著

税法上の配当概念の展開と課題

A 5判上製216頁／4000円

税負担軽減措置が配当のみを対象とすることの多い税法上の配当概念。その現状の正当化が困難となっている現在、所得税・法人税のあるべき姿を見据える上で有用な視座を提示する。〔0588-8・16〕

住永佳奈著

課税の契機としての財産移転

A 5判上製120頁／3200円

米国の所得課税において、取引におけるどのような契機や特色が、財産の含み損益へ課税する根拠となっているか、すなわち、取引の性質が課税のあり方へ及ぼす影響を考察する研究書。〔0642-7・19〕

田中晶国著

所得の帰属法理の分析と展開

A 5判上製226頁／4000円

所得課税において、所得と納税義務者との結びつきを表す「帰属」に関する議論が沉着をみていない現在、「所得の帰属」とは何か、を正面から見据えて再度問い直すことを試みる研究書。〔0641-0・19〕

田中晶国著

課税要件法の理論と課題

A 5判上製232頁／4800円

私法上の法律関係及びそれから離れて、経済的利得を測定・捕捉し、課税要件の充足を判断するという二つの経路を、実体法的規準となる課税要件として形成し、提示することを試みる論文集。〔0708-0・22〕

谷口智紀著

知的財産権取引と課税問題

A 5 判上製298頁／5200円

本書は、憲法原理である租税公平主義と租税法主義の視点から、知的財産権取引の課税問題を整理し、具体的な訴訟事例を綿密に検討、知的財産権課税のあり方を提示する。また、知的財産権課税を巡る日本法の不備をも指摘するとともにアメリカ租税法との比較法研究を通して立法による法整備の方向性についても提案する。〔0540-6・13〕

谷口智紀著

知的財産権取引と租税回避

A5判上製300頁／6000円

〔0660-1・20〕

租税法の基本原則である租税公平主義と租税法律主義の視点から、知的財産権取引の課税理論を検証し、喫緊の課題である知的財産権の国際取引を巡る租税回避問題とその対応を解明する。

山本直毅著

課税所得の認識原理の研究

A5判上製404頁／8000円

〔0661-8・20〕

基本原則である租税公平主義と租税法律主義で体系化された租税法によってのみ納税者の権利は保護されたとの視点から、所得課税における課税所得の認識基準の問題を検討する研究書。

倉見智亮著

課税所得計算調整制度の研究

A5判上製448頁／6500円

〔0680-9・21〕

稼得された経済的成果の喪失、計算の誤りなどにより納税すべき税額が減少した場合における、過年度・現年度に係る課税所得計算のあり方について、米国法との比較を試みる。

橋本彩著

教育支出に対する課税問題

A5判上製144頁／3500円

〔0687-8・21〕

従来、我が国ではあまり議論されてこなかった教育支出に対する課税の問題を、日本および米国の所得課税における議論や制度を万遍なく検討し、分析することを通して検討する。

伊川正樹著

名城大学法学学会選書14

譲渡所得課税に関する基礎的研究

A5判上製402頁／8000円

〔0712-7・23〕

課税の趣旨である増加益精算課税説と現行法令との関係を整理し、課税の趣旨が個別問題の解釈にどのような影響を与えているかを検討する。

しんてんでん
沈恬恬著

介 入 の 技 法

課税要件論再考

A5判上製126頁／3000円

〔0711-0・23〕

租税法固有の研究対象領域において、その中心に位置付けられる課税要件論をひとつの関係性（一連の出来事）として捉え直し、この関係性への税法的介入の意義を問う。

増田英敏編著

租 税 憲 法 学 の 展 開

A5判上製966頁／12000円

〔0622-9・18〕

租税法の重要な基本問題である租税法の解釈・適用をめぐる租税法律主義と租税公平主義の相克と調整の問題について、租税法の基本原則の視点から、その解釈・適用を検討する研究書。

奥谷健著

市場所得と応能負担原則

応能負担原則の二元的構成

A5判上製320頁／5000円

〔0634-2・18〕

「担税力」「所得」概念の多義性から、税法の基本原則である応能負担原則の問題点を解消するために、所得に法的な観点から一定の制限を加え、実行可能なものとすることを試みる論文集。

石田和之著
商学研究叢書1

地方税の安定性

A 5 判並製178頁／2000円

[4253-1・15]

実証分析によって税収の安定性を推計すると共に税収の安定性に関する仮説を検証する。制度分析と実証分析を併用して地方税制度の税収調達機能を税収の安定性から明らかにする有益書。

新井隆一著
税法評論5

税法からの問 税法からの答

46判上製272頁／2000円

[0450-8・08]

税法の問題は 税法の中から回答を探し出す これが王道である 外からみて解釈などすると道を誤ることにもなりかねない 理くつに走って答を引き出そうとすると邪道に陥るおそれなきにしもあらずである 心を澄まして税法に立ち向かえば おのずから正解を得ることができる(略)

新井隆一著
税法評論6

新型消費税 改修所得税

46判上製234頁／2800円

[0504-8・11]

多額所得者・高額資産所有者・金持ちが多く負担をする新型の消費税。税額還付とか給付とか、納税者番号とか大袈裟な仕掛けの要らない新型の消費税。理論的にも実際上も問題ありと、学者も実務家も必ずや不賛成であろう。それでも少額所得の消費者のため提案をする新型の消費税。

浦野広明著
グリーンブックレット2

税務行政における予防法学の実践

所得税に関する事例研究

A 5 判並製104頁／800円

[9197-3・10]

税務調査や税務争訟において納税者の権利を守るためには、納税者や納税者の代理人たる税理士の権利主張が重要な意味を持つ。本書は、納税者の権利救済手段として、「浦野方式」とも呼ばれる請願権の行使方法を紹介する。豊富な請願書の具体例は、実務家にとっても貴重な参考事例となるであろう。